

平成22年度プロジェクト研究評価【中間評価】

(評価の方法)

- ・研究代表者が作成した研究計画及び自己評価、研究報告会における指摘、他機関の第三者専門家のコメントなどをもとに、政策研究戦略室で評価を行った。
- ・研究報告会は、各プロジェクト研究に関連する分野の第三者専門家、文部科学省職員、所内研究者が参加して開催された。

研究課題名	達成目標	評価	コメント
学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究 [平成21～23年度]	[中間的な達成目標] ESDとの関連性やESDの視点の取り入れ方、分析の枠組みを作成する。それに基づいて、ESDの実践の収集・整理を行う。実践プランを作成する。国内外のESDの資料を収集する。 [最終的な達成目標] 小・中・高等学校を対象にした、ESDの指導に関する参考資料を作成する。	計画どおり進めて良い	時宜を得た研究課題であり、国連「持続可能な開発のための教育の10年」の最終年に向け、ESDを国内外に広める上で有意義な成果のとりまとめが望まれる。 今後、持続可能な社会づくりの六つの構成概念の提示根拠の明確化や、二つのアプローチについての概念整理などをさらに進めるとともに、学校現場等の取組に資するよう、丁寧でわかりやすい研究成果の集約・発信が期待される。 また、ESDの一層効果的な展開を図るためには、実践研究にとどまらず、教科構成等の在り方の検討に資する知見を提示していくことが望まれる。

※評価は、「計画どおり進めて良い」／「計画を一部見直す必要がある」／「計画を大幅に見直す必要がある」／「計画を中止すべきである」の4段階により行った。

研究課題名	達成目標	評価	コメント
<p>教育財政及び教育費負担の在り方等に関する基礎的研究 〔平成21～23年度〕 (前身の調査研究の期間を含む)</p>	<p>〔中間的な達成目標〕 諸外国との比較、国内の教育費需要及び供給の状況、投資効果などの観点を踏まえ、教育財政及び教育費負担における特定テーマの課題が整理される。</p> <p>〔最終的な達成目標〕 諸外国との比較、国内の教育需要及び供給の状況、投資効果などの観点を踏まえ、教育財政及び教育費負担における特定テーマの課題や、求められる施策の選択肢に係る基礎的データが整理される。</p>	<p>計画どおり進めて良い</p>	<p>各国の基礎的データの整理、学力データや下方分散に着目した実証的分析、大学の経済効果に関する分析などが着実に進められている。</p> <p>「学力の生産関数」の分析については地域特性などとの関連性も考慮するとともに、高等教育研究については産業連関分析も視野に入れるなど、分析の一層の深化を図ることが望まれる。</p> <p>なお、教育財政・教育費負担は広範なテーマであるため、今回の調査研究にとどまらず継続的な取組が重要と考えられる。</p>

※評価は、「計画どおり進めて良い」／「計画を一部見直す必要がある」／「計画を大幅に見直す必要がある」／「計画を中止すべきである」の4段階により行った。

研究課題名	達成目標	評価	コメント
学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究 [平成21～23年度]	<p>[中間的な達成目標]</p> <p>○平成21年度：</p> <p>(1) 学習成果アセスメントが、各国の大学の質保証システムのなかでいかなる役割を担っているかを明らかにする。</p> <p>(2) 各国の学習成果アセスメントに関する基礎情報を収集する。</p> <p>(3) 初等中等教育段階における学習成果アセスメントのインパクトに関する仮説を整理する。(※(3)については補足的に検討することとする。)</p> <p>○平成22年度：</p> <p>学習成果アセスメントの実施が①大学による学生ニーズへの対応のあり方、②大学による消費者情報の提供・学生による大学選択のあり方、③大学と地域・産業界の連携・協力のあり方、④大学による教育改善への取り組み、⑤教育内容・方法のあり方に、いかなる変化をもたらすのかを明らかにする。</p> <p>○平成23年度：</p> <p>学習成果アセスメントの功罪を整理し、大学の質保証アプローチとしての可能性と限界を評価する。</p> <p>[最終的な達成目標]</p> <p>OECD では平成23年度に、AHELO フィージビリティ・スタディの結果を踏まえて、国際的な学習成果アセスメントの実施可能性(実施できるか)を評価する予定であり、実施可能と判断された場合には、AHELO 本調査実施にむけた議論(実施すべきか)が展開されていくことになる。その際に、学習成果アセスメントの導入が大学にいかなる意図的・無意図的影響を及ぼすのかに関する知見を提供することが、本研究の目標である。</p>	計画どおり進めて良い	<p>4か国における学習成果アセスメントの現状について、基礎的情報の収集が着実に進められている。今後さらに他の国々を対象とした調査・検討を進め、「OECD 高等教育における学習成果の評価(AHELO)」への対応を見据え、我が国の高等教育政策に向けた知見を提供することが望まれる。</p> <p>ただし、大学の質保証システムの概念整理の在り方(入口管理、プロセス管理、出口管理)や、高等教育の私費負担率と大学の参入率を基に質保証システムを類型化している点については、さらなる検討が必要と考えられる。</p>

※評価は、「計画どおり進めて良い」／「計画を一部見直す必要がある」／「計画を大幅に見直す必要がある」／「計画を中止すべきである」の4段階により行った。